

パーキンソン病医療の最新情報

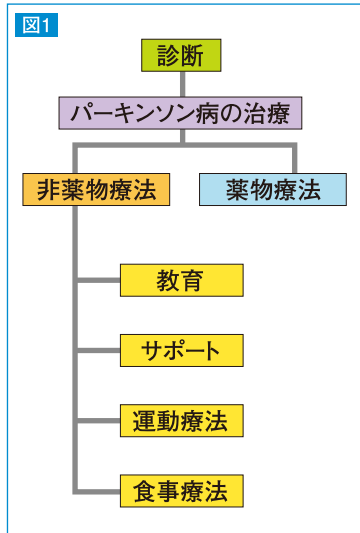
薬物治療はできるだけ早く開始すべきか？

まずは運動を習慣化

パーキンソン病の治療は、薬物治療と運動療法とに分かれます（図1）。運動療法に関しては、パーキンソン病と診断されたらすぐに開始して習慣化する必要があります。特に、足の力を強化することは大切です。

初期軽症の薬物治療の考え方

パーキンソン病と診断されたらすぐに薬物治療を開始すべき、という意見についてはまだ良い根拠がありません。治療を病気の早期から開始すると進行が遅くなる、との試験結果が一つありますが、



他の試験では、薬は違うものの早期から開始しても9カ月遅れでも変わらないという結果でした。これ以外に研究報告はなされていません。

こうした研究は大規模となり、結果の分析もたいへんで簡単に行える研究試験ではありません。早期で軽症の場合、どのように治療を開始するかについては議論があり、まだ専門家によって意見の異なるところです。

これまでの「患者が生活する上でパーキンソン病による支障が出れば治療を開始する」という意見が優勢でしたが、早く始めると良いと考える専門家もいます。それでも薬で病気の進行を食い止めることはできません。

状態により決まる薬の開始時期と種類

パーキンソン病では、脳内のド

パミンが減少します。薬の種類としては、脳内でドパミンとなるドパが最も有効ですが、多くの場合（特に若くして発病した患者の場合）は数年経つと効果が不安定となります。そのため、すべての患者にドパを最初から使うことは適切ではありません。

この判断は教科書に書いてある通りにはいきません。専門家の経験と知識により、治療の結果は大きく異なってきます。パーキンソン病発症後の生涯は20〜30年間だと考えられており、長期間にわたる闘病生活をよく理解した上で、治療方針を決定することがその後の生活の質の改善にとり極めて重要になります。